

# 室神山

学校便り  
平成31年2月19日号  
江津市立江津東小学校長 安食 徹

## サケの学習（4年生）



1月18日（火）に4年生が、サケについての学習をしました。本校では、都治川鮭放流の会のご支援により、これまで伝統的にサケの稚魚の飼育に取り組んできました。今年、沢山の赤ちゃんサケが育っています。この学習を通して環境や自然、ふるさとの良さについてしっかりと学んでほしいと思います。

今年で13回目となるサケの放流会【3月9日（土）14時から】に向けて、体

験的な学習を重ねていきます。島根県内でもこの体験ができる小学生は少ないと思います。子どもたちは、玄関に置いてある水槽の中で、スクスクと育つサケを愛おしそうに見ています。これからもサケが順調に育ち、ベストコンディションで放流できることを願っています。



## 授業公開日 人権・同和教育PTA研修会



1月20日（日）には、人権・同和教育についての学習を見させていただきました。それぞれの学年が、発達段階に応じた内容で、学習に

取り組んでいました。

授業公開の後は、曹洞宗龍光寺副住職 だるま 保育園園長 日本いのちの教育学会理事の秋吉 龍成氏を鹿児島県からお迎えし、『ぼくのいのち、わたしのいのち』（児童対象）『いま、できる“いのち”の教育』（保護者・教職員対象）の演題で、ご講演をしていただきました。

初めの45分は児童対象の話でしたが、その中で強調されたのは「①命は一つ ②自分の命を大切にする ③他人の命を大切にする」ということでした。

また、後半は下の講演資料のような内容を丁寧に伝えていただきました。まさに『命の教育』は人権・同和教育の基盤となるものであると感じました。



【講演資料の要点をまとめたもの】

○“もの”のいのち:本来でない使い方や、おかしい使い方、粗末な使い方をしない

☆abuse＝乱用、悪用、誤用、酷使、虐待

○言葉といのち:「あなたを見ているよ、大切に思っているよ」というまごころからの言葉を送る

☆社会的自尊感情：他者との比較による自尊感情

☆基本的自尊感情：自分自身で納得する自尊感情

愛語＝「慈念衆生猶如赤子の懐いを貯えて言語するは愛語なり。徳あるは讃むべし徳なきは憐れむべし」『修証義』より

“愛語”の急所:どのような表情で、どんな声で伝えるのか

ある研究では、メッセージで伝わる情報のうち、実に93%が視覚情報と声のトーンによる自分を粗末に扱わない＝子どもたちが自身のいのちの価値を高める

○“人のいのち”と“あなたのいのち”“わたしのいのち”

「小学生が事故に遭った」と「あなたの子どもが事故に遭った」どう受け取りますか？

☆わたしにとって“あなたのいのち”は特別

☆親である“わたしのいのち”を考えたことはありますか？

子どもにとって“わたし”の死はどういう意味がある？

○いのちを信じる

「人が神を信じることをやめるとき、彼は何も信じなくなったわけではない。神以外の何物かを信じるようになるだけである」G・K・チェスタートン

☆“なにかを信じる”ことを教えてあげてください。

今日学んだことを生かし、これからも本校の目指す子ども像である『**①**とに、優しくできる子 **②**んばって、学ぶ子 **③**んが強く、たくましい子』の育成に向けて、職員一丸となって取り組んでいく所存です。どうかこれまでと変わらず、ご支援、ご協力のほど、よろしく願いいたします。

児童の感想（○内数字は学年）から、いくつか紹介します。低学年の感想では、読みやすいように漢字にしたり、表現の不十分なところを補った部分があります。

- ①私は、和尚さんに、たくさんのお話を聞かせてもらいました。その中で命は一つだとは知っていたけど、本当に命は絶対ないといけないんだと思いました。私は命の話に感動しました。いろいろな話をしてくださってありがとうございます。
- ②私は津波で、お母さんやお父さんが亡くなってしまって会えない子がいるので、かわいそうでした。和尚さんが、命は一つしかないことと、命を大切にすることと、周りの人の命を守ることを「覚えて帰ってね」と言ったので、私はずっと覚えときます。
- ③今日は、命に関することを教えてくださって、ありがとうございます。津波のことをあまり分からなかったので、教えてくださってありがとうございます。自分の命を守って、友達の命も守りたいです。
- ④ぼくは、命の重大さがよく分かりました。今度からは、命は一つ、自分の命を大切に、周りの人の命も大切に、という三つのことを守りたいです。楽しい思い出のそばには、人と人との関係があるんだと思いました。これからも命を大切にしていきます。
- ⑤私は今日のお話を聞いて、大震災があつて、いろいろな人が亡くなってしまってかわいそうだなと思いました。自分のお父さんやお母さん、友達がいなくなったら、きっと泣くぐらいじゃすまないと思います。だから秋吉さんが言われた、命は一つ、自分の命を大切に、周りの人の命も大切にしようと思いました。
- ⑥自分の命の大切さが分かって、自分の命を大切にしようと思いました。他人の命、自分の命は一つだから、大切に生きようと思いました。周りの人の命も大切に、大切な人生を送りたいと思いました。今日はありがとうございました。

保護者の皆様からいただいた感想もいくつか紹介します。

○忙しいときなど、子どもの話をしっかり聞いていないときがあるなど“愛語”の急所の話

を聞いて思いました。しっかり向き合い、伝えるように気をつけていきたいです。子どもたちには、今できることを一生懸命がんばり、周りの友達にも、自分自身にもしっかり向き合ってほしいです。それが命について考えることにつながるのかなあと思いました。ありがとうございました。

○家がある、家族がいる、食べ物がある、友達がいる、当たり前なのが幸せなんだと、改めて実感しました。たまに大切な人が死んだら、どれくらい悲しいのだろう。自分が死んだら、子どもたちはどうなるんだろうと不安になることがあります。それを思い始めたのは、自分に家族ができてから。小さな虫でさえ殺せなくなりました。不思議です。今日はたくさん勉強になりました。ありがとうございました。

○普段、正直なところ、片手間に子どもたちに話をするときがあり、表情や声のトーンが大切なこと、それが優先されることを教えていただいて、中学生の娘、小学生の息子の思春期に向き合っていないといけないなと思いました。ただ、子どもが壁に当たったときに、適切な言葉で伝えられているかは、実際自信はありませんが、気づいた変化は放置しないようには心がけてはいるつもりです。子どもを育てて、社会に出す責任があるので、しっかり丁寧に向き合っていけたらと思います。

## 1 日入学

2月5日（火）に来年度の新入生と保護者を迎えて、一日入学を行いました。新入生は1年生との交流活動を楽しんでいました。1年生も張り切って発表などをしていました。来年度、新入生が元気に入学してくれることを、全校のみんなでも楽しみにしています。



## 全校朝礼で話したこと

2月7日（木）の全校朝礼の表彰の後、次のような内容を話しました。

さっき表彰をしました。表彰された人は、今までの頑張りが実ったということです。惜しくも賞に入らなかった人も、頑張ったことは自分の中にしっかり貯まっています。いつか実ることでしょう。楽しみにしててください。友達が表彰されたことをうらやましく思う気持ちはやる気に変えましょう。嫉みに変えてはいけません。大損です。そして、表彰された人に心からおめでとうと言えるような心構えを作ると、きっと自分の実りも早くなると思います。これからもいろいろなことにチャレンジしてってください。

そして表彰された人も、そうでない人も、これまでを振り返って、まず自分を好きになってください。悩んだことも苦しかったこともあったでしょうが、それを乗り越えてここまでやってこられた立派な自分なのです。それだけでも『十分に頑張ってきた自分』なのですから。『人は自分を見るように他人を見る』という言葉があります。そして世界は自分の心の鏡です。まず、自分を好きになれなければ、人を好きになることはできません。自分を愛せなければ、人を愛することもできないのです。執着や依存はできても、温かい心のつながりや愛にあふれたコミュニケーションをとることができないのです。だから、頑張った自分を認めてあげて、褒めてあげて、感謝してあげてください。自分を好きになってあげてください。好きになる理由をたくさん見つけてあげてください。自分を好きになることができれば、人を好きになることができます。自分を愛することができるようになれば、人に愛を注ぐことができるようになります。自分の命を大切にできれば、他の命も大切にすることができるようになります。この前の人権・同和

教育の講演会でも学習しました。感想も良いものがたくさんありました。みんなが本気で聞いてくれたんだと嬉しくなりました。実は講師の秋吉さんも「子どもたちの聴く姿勢が良くてびっくりした」と講演の後、話してくださいました。

3学期も半分くらいになりました。、今のみんなと一緒にいられるのも、今日を入れても卒業式までの27日しかありません。これまで一緒に学び、頑張ってきた仲間にも、しっかり感謝しましょう。これからを感謝にあふれる素敵な時間にしていきましょう。そして、いろんなことに感謝でき、幸せになっていける『主人公の道』を歩いて行きましょう。それが東っ子の目指す『ひとに、やさしくできる子 がんばって、学ぶ子 しんが強く、たくましい子』に近づいていくこととなります。『感謝・尊敬・寛容』を自分の心の真ん中に置いて、たくましい心作りをしていきましょう。みんなで、頑張って、願生って、顔晴っていきましょう。

## 大縄跳び大会

2月14日(木)の昼休みに健康委員会が企画し、大縄跳び大会が開かれました。全校で6年生とともに楽しく活動することができました。いい思い出になったことでしょう。これまで様々な活動、様々な時間に交流を重ねてきた江津東小学校の仲間です。今の仲間と一緒にいられるのは、あと少しですが、卒業式までの残りの期間を大切に過ごしてほしいと思います。



## 掃除に学ぶ会のお知らせ

3月10日(日)の午前8時より、本校において掃除に学ぶ会が開催されます。2時間程度の活動になると思います。これはイエローハット創業者の鍵山秀三郎氏が始められたものです。一昨年(平成28年度)も同じ頃に開催されました。最近では海外でも掃除研修会が行われ、日本の素晴らしさとして高い評価を得ています。

私は今まで3回参加経験があり、いずれもとても清々しい気持ちを味わいました。素手で便器を洗うということで、はじめは抵抗感がありますが、衛生的に様々な配慮をして取り組みます。小学校生活のまとめに6年生が校舎への感謝の思いを込めて参加してくれると嬉しいなと思っています。参加を希望される場合は、当日掃除のできる服装で来てください。但し大人の場合、参加費が500円必要となります。

下枠内は、初めて参加したときにもらった資料の内容です。

### なぜ、トイレ掃除か。

- 1. 謙虚な人になれる** どんなに才能があっても、傲慢な人は人を幸せにすることはできない。人間の第一条件は、まず謙虚であること。謙虚になるための確実で一番の近道が、トイレ掃除です。
- 2. 気づく人になれる** 世の中で成果を上げる人とそうでない人の差は、無駄であるか、ないか。無駄をなくすためには気づく人になることが大切。気づく人になることによって無駄がなくなる。その「気づき」をもっとも引き出してくれるのがトイレ掃除です。
- 3. 感動の心を育む** 感動こそ人生。できれば人を感動させるような生き方をしたい。そのためには自分自身が感動しやすい人間になることが第一。人が人に感動するのは、その人が手と足と体を使い、さらに身を低くして一所懸命取り組んでいる姿に感動する。特に、人のいやがるトイレ掃除は最良の実践です。
- 4. 感謝の心が芽生える** 人は幸せだから感謝するのではない。感謝するから幸せになれる。その点、トイレ掃除をしていると小さなことにも感謝できる感受性豊かな人間になれる。
- 5. 心を磨く** 心を取り出して磨くわけにはいかないもので、目の前に見えるものを磨く。特に、人のいやがるトイレをきれいにすると、心も美しくなる。人は、いつも見ているものに心も似てきます。

「日本を美しくする会」